

Slovenia Monthly January 2019

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2019年2月17日



～1月の主なポイント～

- 内政：** シャレツ内閣の支持率56.1%，過去10年間で最高
ヴァスレ新中央銀行総裁，任期開始
- 外政：** スロベニア政府，マケドニア及びギリシャ両国議会における国名変更承認を歓迎
- 経済：** 安川電機，ロボット製造拠点の試験操業を開始
中国資本のマリボル空港運営会社，リース契約を解約
- スポーツ：** スキージャンプのザイツ選手，札幌で銀メダル獲得

政治

【内政】

●新中央銀行総裁，任期開始【10日】

先月国民議会にて承認されたヴァスレ新中央銀行総裁(Mr Boštjan Vasle)が任期を開始した。ヴァスレ氏は、49歳、マクロ経済分析発展研究所(IMAD)の所長を11年努め、インフレ抑制、ユーロ圏への統合、構造改革等、スロベニアにおける主要マクロ経済課題の対応に関与してきた。また、同氏は、IMF、EU及び欧州中央銀行(ECB)を含む国内外の専門機関で働いた経歴を持ち、独立性の高い専門家として知られる。任期は6年、スロベニア中銀における第5代目の総裁となる。



(Photo: Bor Slana/STA)

●欧州議会選挙に向けた動き

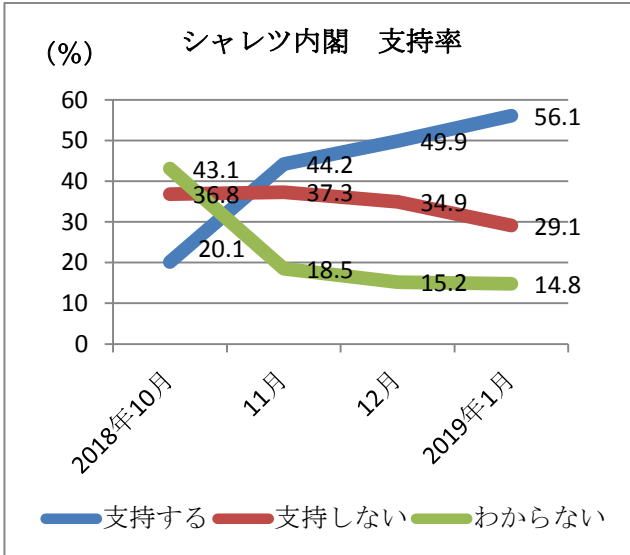
7日、野党新スロベニア・イニシアティブ(NSi, 中道右派)は、本年5月に実施予定の欧州議会選挙において、現職のペテルレ欧州議員(Dr Alojz Peterle)及びノヴァク前NSi党首(Ms Ljudmila Novak)を擁立する旨公表した。また、NSiは、前回2014年の選挙では人民党(中道右派, SNS)との共同リストで戦ったが、今次選挙においては、SNSとは別に独立して選挙に挑む意向を表明。なお、欧州議会においてスロベニアは8議席有し、NSiほか中道右派の野党民主党(SDS)及びSNSは欧州人民党グループ(EPP)に所属する。

8日、社会民主進歩同盟(S&D, Progressive Alliance of Socialists and Democrats)に所属する連立与党ジュニアパートナーの社会民主党(SD, 中道左派)のジダン党首は、欧州議会選挙に関し、現時点において、候補者名簿は未定だが、少なくとも現職のファヨン欧州議員(Ms Tanja Fajon)が同名簿の1位となると想定されると述べた。

11日、スロベニアにおけるALDE(欧州自由民主連盟グループ)所属の連立与党3党、マリヤン・シャレツ・リスト(LMS, 中道左派)、現代中央党(SMC, 中道左派)及びアレンカ・ブラトウシェク同盟(SAB, 中道左派)は、欧州議会選挙のための共同候補者リスト作成に向けて協議を開始した。候補者名は公表されていないが、シャレツ首相(LMS党首)は、共同リストの第1位候補は最大のALDE所属政党であるLMSが占めるべきとの見解を示している。

●シャレツ内閣の支持率, 過去10年で最高【21日】

日刊ドゥネウニク紙による世論調査において、シャレツ内閣は、発足後5か月目の2019年1月、歴代政権を含め過去10年間における最高の支持率56.1%を記録した。内閣支持率の推移は以下のとおり。



この結果を受けてインタビューを受けたシャレツ首相は、「政府の目標は、仕事をして成果を出すことであり、政権発足後3~4か月の時点で、政権の支持率や成果について語ることは時期尚早。課題も、実施すべき計画も山積しているの、引き続き真摯に取り組んでゆく」と述べるに留まった。なお、当該世論調査は、1月8日から10日にかけて有権者 700人を対象に行われた。

●文化大臣辞任【28日】

21日、文化省員が所属する労働組合(GLOSA)が、同省職員の自殺に至ったと推測されるプレシチェク文化大臣による職場におけるいじめの実態につき、シャレツ首相に対して調査を要求したのを受け、同首相はプレシチェク大臣に対して説明を要求した。GLOSAは、同大臣による文科省職員に対する暴言等を含むいじめは日常化しており、自殺した文化省職員の運転手に対しても暴言を吐き、プライベートの用事を指示するなど職権の乱用があったと説明した。

27日、プレシチェク文化大臣は、シャレツ首相宛に辞表を提出し、「ここ一週間における公開リンチは自分や文化省関係者だけでなく、外部の文化関係者にまで及び、容認し難い事態である。他方で、現状に鑑みれば、自分に与えられている唯一の解決策は文化大臣として辞職することのみと考える」と述べた。同大臣は、公用車をプライベートで使用したことは認めたものの、自殺した文化省職員に対するいじめについては否定した。

28日、シャレツ首相は、「現時点において、文化省における崩壊した人間関係の修復は不可能であり、状況改善のためには大臣、副大臣を含め同省のリーダーシップを一新する必要がある」として、プレシチェク文化大臣の辞表を受理した。同首相の決断に関し、連立与党各党は支持を表明。また、文化省を担当する連立与党の社会民主党(SD)に対して、早急に新大臣の候補者を提示するよう要請した。

同時に、シャレツ首相は、「プレシチェク大臣は、文化予算を増加させ、省内の改革を推し進めた」と同大臣を評価した上で、「ここ1週間で受け取った同氏に関するコメントは賛否両論あり、自分はこれら全てに関し判断を下す立場にないと考える」とコメントした。さらに、同首相は、「文化省内のいじめに関する報告は、前政権下で既に74件にのぼっており、こうした状況を改善する必要がある」と述べた。

なお、シャレツ内閣における閣僚の辞任は、バンデリ開発・戦略事業・結束担当大臣に続き、今回で2人目となる。

●次期人権オンブズマンが選出【29日】

国民議会において、次期人権オンブズマン選出にかかる投票が行われ、賛成票89票、反対票なしで、候補者の特別支援教育専門家、ペテル・スヴェティナ氏(Mr Peter Svetina)が選出された。同氏は、特別支援教育の専門家及び社会起業家であり、1992年から1999年まで、オーストリアにおいて障害者や障害を持つ学生を支援し、1999年からは、リュブリャナ大学及びマリボル大学において障害を持つ学生の支援にもあたっている。また、2015年には、リュブリャナ北西部に位置するコメンダ市において社会起業家のための「Grunt Institute」を設立。その他、障害者の就労にかかる著書を共著、関連法案の策定にも携わった経歴を持つ。人権オンブズマンの任期は5年。スヴェティナ氏は、本年2月23日、現職ヌドルヴァー氏の任期満了後、就任する。



(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●シャレツ首相に対する不信任動議, 否決【29日】

昨年12月に野党民主党(SDS)が提出したシャレツ首相に対する不信任動議に関し、29日、国民議会において不信任投票が行われ、賛成29票、反対53票で否決された。SDSは、政府が、2014年の憲法裁判所の判決に基づいて、公的に認められた教育課程を提供する私立学校に対して、財政支援の国庫負担を既存の85%から100%に引き上げるべきとする憲法裁判所の判決を履行していないとして、不信任動議を発動。

シャレツ首相は、私立学校への財政支援引上げに関し、本年9月1日からの施行を目指して、教育・科学・スポーツ省が既に関係法の改正案を策定していると説明した。

【外政】

●国境画定問題:クロアチアが欧州司法裁判所に反論提出【5日】

スロベニアが、国境線確定問題に関する仲裁裁判所の裁定のクロアチアによる不履行はEU法違反であるとして欧州司法裁判所に提訴していた件につき、クロアチア側が、反論を同裁判所に提出した。クロアチア側は、仲裁裁定の受け入れ及び同合意の不履行がEU法に違反しているとのスロベニア側の主張を否定し、欧州裁判所は本件につき管轄権を有しないと主張している。8日、ボジッチ・スロベニア外務副大臣は、2月13日までにクロアチア側の主張への反論を同裁判所に提出するとの方針を明らかにした。

●キプロス大統領のスロベニア訪問【9日】

アナスタシアディス・キプロス大統領がスロベニアを公式訪問し、パホル大統領と首脳会談を行った。両大統領は、二国間関係の更なる発展の必要性を強調すると共に、国際法及び国際法廷の判決遵守を呼びかけた。また、両大統領は、EUの未来、Brexit、移民問題及び来る欧州議会選挙等につき意見交換を行った。会談後、パホル大統領は、我々は、全ての分野における二国間協力の進捗状況は良好であるものの、更なる関係強化に向けた二国間対話の継続が重要との認識で一致した旨述べた。アナスタシアディス大統領は、シャレツ首相及びジダン国民議会議長とも会談した。

●マケドニア国会における国名変更承認を歓迎【11日】

マケドニア国会において、「北マケドニア共和国」への国名変更にかかる憲法改正案が可決されたことを受け、スロベニア外務省は、同国会における投票結果を歓迎する旨表明した。また、スロベニア外務省は、「今般のマケドニア国会における決断は、同国の繁栄と発展を後押しするものであり、またマケドニア・ギリ

シャの二国間関係だけでなく、地域全体にとっての歴史的な成果である」と評価した。



(Photo: Xinhua/STA)

●パホル大統領、ルーマニア大統領と会談【15日】

パホル大統領は、ルーマニアを公式訪問してヨハニス・ルーマニア大統領と会談し、スロベニアは、現在EU理事会議長国を務めるルーマニアを全面的に支持することを表明した。ヨハニス大統領は、議長国として、西バルカン諸国のEU加盟プロセス、BREXIT、EUの多年次財政枠組(MFF)等にかかる課題を重要視している旨説明した。また、両大統領は、人々の安全の確保及び繁栄のためには、強固で結合されたEUが重要であるという認識で一致した。

●ツェラル外相、フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州知事と会談【16日】

16日、ツェラル外相は、同外相の招待を受けてスロベニアを訪問中のフェドリガ(Mr Massimiliano Fedriga)フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州知事と会談し、イタリアに居住するスロベニア少数民族の状況等を中心に意見交換を行った。ツェラル外相は、州政府によるスロベニア少数民族への配慮に対して感謝の意を表明し、また両氏は、リュブリャナ・トリエステ間の鉄道再開を含む経済協力、トリエステにおいて2020年に開催予定の欧州科学オープンフォーラムに向けた協力等、同州とスロベニアとの間の協力事業に満足の意を表明した。

●外交政策委員会、GCMにかかる国民投票動議を否決【16日】

国民議会外交政策委員会は、昨年11月に野党民主党(SDS)及び国民党(SNS)によって提出された、国連移住グローバル・コンパクト(GCM)への参加を問う国民投票実施にかかる動議を否決した。野党は、長年、移民問題に対して強硬な姿勢を保ってきており、GCMのような重大課題については国民の真意を問うべきとしていた。

●英国議会下院によるBREXIT協定案否決：スロベニアの反応【16日】

シャレット首相：離脱協定案は、英国による秩序だったEU離脱を可能にする公平かつバランスの取れた妥協案であり、スロベニアは英国議会が同協定案を否決したことに対して遺憾の意を表明する。スロベニアは、EUが承認した離脱案を、将来に向けた最善の解決策かつ2021年以降の関係構築のための基盤を提示するものとして、引き続き支持する。また、他のEU加盟国と同様に、英国政府が今後の対応を早急に提示することを期待する。

ツェラル外相：英国議会によるEU離脱協定案の否決に対して遺憾の意を表明する。EUは、誠意を持って、また、将来にわたる建設的な協力を目指して交渉に臨んでいた。

●ツェラル外相、アイルランド欧州問題担当国務大臣と会談【23日】

ツェラル外相は、スロベニアを訪問中のマッケンティ・アイルランド欧州問題担当国務大臣と会談し、二国間関係及び英国のEU離脱、西バルカン情勢を含む最近の政治問題につき意見交換を行った。同外相は、二国間の関係は極めて良好であると述べ、英国のEU離脱に際するアイルランドとの連帯を表明し、グッド・フライデー合意の重要性を強調した。また、両外相は、EUは、西バルカン諸国のEU加盟に向けた展望を一層促進していくべきだとの認識で一致した。

●ギリシャ議会によるマケドニア新国名承認を歓迎【25日】

スロベニア外務省は、ギリシャ議会によるマケドニア国名問題に関する合意の批准は、両国のみならず、西バルカン及び欧州全体の利益となる歴史的ステップであるとして、歓迎する旨の声明を発表した。ダボス会議のマージンにおいてザーエフ・マケドニア首相と首脳会談を行ったシャレット首相は、本件合意達成におけるマケドニア外交の成功に祝意を表明した。また、同会談において両首相は、同合意によるマケドニアのEU加盟プロセスの加速は、スロベニアにとっても利益となるとの認識で一致した。

●パホル大統領のセルビア訪問【28日】

セルビアを訪問したパホル大統領は、ブチッチ・セルビア大統領と会談した。両大統領は、特にビジネス分野での協力を通じた両国の友好関係を確認した。パホル大統領が、セルビアによるEU加盟に向けた努力を支持する旨強調したのに対し、ブチッチ大統領は、スロベニアによる支持に謝意を表明すると共に、セルビアとコソボの関係が、EU加盟プロセスにおいて重要となるとの認識を示した。また、両大統領は、5月7日から8日にかけてアルバニアのティラナで開催され

るブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合についても議論し、ブチッチ大統領は、同会合は地域全体にとり重要なものであると述べた。今回の訪問には、約100名のスロベニアのビジネス関係者が同行し、両大統領は、約600名の出席を得て開催されたビジネスフォーラムに出席した。

●中国科学院のスロベニア訪問【28日】

中国科学院の代表団は、スロベニア科学芸術院(SAZU)を訪問した。今次訪問には、駐スロベニア中国大使の他、ハイテク企業で中国製HPC(高性能コンピューティング)を導入している Arktur 社のトミ・イリヤシュ社長及び加速器の制御システムを主に開発・製造する Cosylab 社のマルコ・プレシュコ社長が同行した。中国科学院とSAZUは、2018年に協力に関する覚書に署名している。

SAZU会員であるロベルト・ゾレツ氏は、両院は長年に亘りカルスト学の分野で協力してきており、近年はスーパーコンピューター分野で協力が強化されつつあると述べた。今次訪問では、中国科学院の代表より、SAZUに対し、ハプスブルグ帝国の外交官及びイエズス会の宣教師として18世紀に中国に渡航し、その後中国に帰化し、同地で天文学者として活躍したスロベニア出身の Augustin Hallerstein 氏(中国名:Liu Songling)が作成した天球儀のレプリカが贈呈された。

経済

●リュブリャナ空港、年間利用者7.7%増【14日】

リュブリャナ空港運営会社「Fraport Slovenija」は、2018年のリュブリャナ空港利用者数が前年比7.7%増の181万2411人を記録した旨を発表した。貨物の輸送量は前年比0.4%増の12,378トンであった。「Fraport」のスコビル営業部長は、2019年、航空・空港業界は全体的に利用が増加傾向にあり、リュブリャナ空港の利用も同様に増加するが、その増加幅はやや安定的になる見込みであると述べた。なお、リュブリャナ空港では、先月、2021年にオープン予定の新ターミナルの建設が開始された。

●マリボル空港運営会社、リース契約を解約【18日】

マリボル空港管理会社「Aerodrom Maribor」社を所有する中国資本の「SHS Aviation」社は、同空港の運営が困難になったとして、リース契約を解約する旨を発表した。同社は、2016年末に、国営空港管理会社を買収後、2017年初めに、リース契約を開始。総額6億6000万ユーロの空港拡張等のインフラ投資を計画していたが、その後、スロベニア政府側の区画整備及びコンセッションに関する手続の遅延等を理由に、既存のリース契約では財政的に持続不可能となって

きたと説明。他方、今後の政府との交渉次第では、投資計画を続行する可能性も排除していない。

これに対し、インフラ省は、今回の「SHS Aviation」社の発表に対し驚きを示し、「政府は同空港の長期的な開発のために積極的に協議してきた。明確な条件のもと署名されたリース契約を開始して2年も立たない内に、非現実的な計画を提示し、今になって政府側に支援を要請してきていることは容認できない」と述べた。同リース契約は6か月後に無効となる。

●アドリア航空、運送事業許可を維持【22日】

アドリア航空の財務状況を調査していた民間航空局は、同社が、長期的な資金流動性を確保しているとの判断を下した。その結果、アドリア航空は、航空運送事業許可を維持出来ることとなった。同社のプレスリリースによれば、民間航空局は、同社のこれまでの財務的措置及び今後の計画を精査し、長期的観点から、同社が全ての債務を返済することが出来、事業許可維持に必要な全ての法的要件等を満たしていると判断した。同航空会社は、2017年及び2018年、赤字を記録し財政困難に陥っていたが、2018年末、同社を所有するドイツ系「4K Invest」社が400万ユーロの資金を注入し、2019年には更に1000万ユーロの追加投資を予定している旨発表した。

●クルシュコ原発廃棄物施設に関する会合開催、合意に至らず【22日】

クルシュコ原発の放射性廃棄物貯蔵施設の建設に関し、同原発を所有するスロベニアとクロアチア政府代表による合同委員会の会合が開催されたが、合意には至らなかった。両国は、2025年迄に同施設を建設する必要があるが、ブラトウシェク・インフラ大臣は、既に、スロベニア政府は、クルシュコ近郊のヴルビナ(Vrbina)において、低レベル放射性廃棄物貯蔵施設を建設していることもあり、新たな施設は、両国による合同施設となるべきであるとの立場を表明し、両国の専門家は6月までに潜在的解決策を策定するとの考えを明らかにした。クロアチア政府は、合同施設設置に向けた条件の一つとしてヴルビナの施設における両国からの廃棄物の受入れを挙げており、また、環境面、財政面における影響等を精査する必要があると述べた。

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線:投資計画を閣議決定【24日】

スロベニア政府は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業の開始に必要な、同事業の投資計画を閣議決定した。ブラトウシェク・インフラ大臣によれば、同計画における建設総額は9億6800万ユーロ、予測困難な作業のための予備費及び金利を含めた額は、約12億ユーロとなっている。

24日、ダボス会議出席中のシャレツ首相は、同会合のマーゲンにおいてホイヤー欧州投資銀行(EIB)総裁と会談し、本件事業はスロベニアのみならず、欧州全体にとり戦略的に重要なものであると強調した上で、本件事業への参加決定に際し、EIBが建設的な対応をするものと確信していると述べた。

●安川電機のロボット工場、試験操業開始【24日】

安川電機は、コチェウイェのロボット製造拠点において、第一段階として40名を雇用し、試験操業を開始した。同工場では7種類のロボットが製造される予定となっており、事業許可証の発行を受け、正式な操業開始は4月8日に予定されている。



(Photo: Anže Malovrh/STA)

●2018年中央政府予算、財政黒字GDP比1.2%【31日】

スロベニア財務省は、2018年の中央政府予算において5億3700万ユーロ(GDP比1.2%)の財政黒字を記録した旨発表した。2017年はGDP比0.8%の赤字を記録。財務省は、2018年に財政収支が改善された理由として、歳入が、増収(7%増)、EU基金収入及び銀行の配当金(NLB2億7000万ユーロ)等の増加により前年比13%上昇したのに対し、歳出の増加は、公務員給与の増加があったものの、公的債務減少により利払い額の節約によって相殺され、前年比3.4%に押さえられたことが挙げられると説明している。

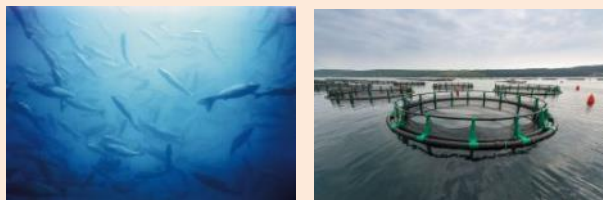


スロベニア湾岸の町ポルトロージュに本部を置く水産養殖企業「Fonda」は、毎年スロベニアにおいて質の高い観光事業に贈られる「ヤコブ賞 (Jakob Award) 2019」を受賞しました。



「Fonda」は、最高品質のスズキ (Seabass) で知られていますが、教育的観光にも注力しており、8年前から「Unforgettable Day at the Fonda Fish Farm」というガイド付きの養殖場ツアーを開催。毎年約1,000人が訪れており、ますます大きな関心を集めています。

訪問客は、「Fonda」の海面生簀において、手作業で行われ、化学飼料を使わない持続可能な養殖技術、漁業、海洋生物等について学ぶことができ、また、オプションとして、併設されたレストランにて、そうして育てられた新鮮なスズキの料理を楽しむことができます。



「Fonda」経営者のフォンダ氏は、「健康的な食を促進し、漁業コミュニティを支えたいという思いで始めた」と、ツアー企画のきっかけを述べています。また、同氏は、「鶏の養殖に42日間しか掛からないのに対して、スズキの養殖には4~5年要する。持続可能な養殖を営むためには地域の繋がりが大切である」と述べています。

なお、同社では、現在約50トンのスズキを毎年生産していますが、この春・夏頃には新たにタイ (Seabream) の収穫を開始予定です。

<http://www.fonda.si/en/visits/>

●レジ袋の有料化、開始【1日】

1月1日、スロベニア全土の店頭において、レジ袋の有料化が義務付けられた。同規制は、2019年末までに軽量プラスチック袋の使用を一人当たり90枚に半減させるEUによる取組の一環である。なお、生鮮食品売り場におけるプラスチック袋は依然として無料配布が可能。また、レーベン環境大臣は、スロベニアにおいて、全てのレジ袋を廃止とする更なる規制を導入する意向を表明している。

●ハッシュタグ #ifeelsLOVEnia、ミリオン達成【3日】

スロベニア観光局 (STO) は、#ifeelsLOVEnia ハッシュタグがソーシャルネットワークおよび観光ポータル等で100万回使用されたと発表した。STOは、昨年6月、全国各地の魅力を発信するために Instagram, Facebook, Twitter, Youtube, STOポータルにおいて同ハッシュタグを使用するキャンペーンを開始。STOによる広報に加え、#ifeelsLOVEnia ハッシュタグを使って60万件の投稿があった。1日の平均投稿数は2,830件、共有写真やビデオに関連させると、合計投稿数は1,400万件に達し、閲覧者数は1億3,300万人に達していると推定される。STOは、「スロベニアを感じる200万の理由」と題した同キャンペーンにおいて、200万個の#ifeelsLOVEnia ハッシュタグを達成することを目指している。

●出生率連続で減少【4日】

2018年の出生率は前年比3%減少の19,123人であった旨国立公衆衛生研究所が発表した。2011年より連続しての減少となった。同研究所の調査によると、22,002人が出生した2010年までは増加傾向にあったが、その後減少傾向が続いている。

●新歩行リハビリテーション機器導入【6日】

ソチャ・リハビリテーションセンター (URI Soča rehabilitation centre) は、重篤神経疾患患者のために新しい歩行リハビリテーション機器を導入した。「ロコマト (Lokomat)」と呼ばれる同機器は、自立歩行等が困難である中枢および末梢神経疾患の患者に対して、コンピュータガイドによる歩行訓練をアシストする。同機器を使用する患者は、「今まで不可能と思っていた自立歩行への一歩を踏み出した」と述べた。40万ユーロの機材は、保健省予算により賄われた。ファキン保険大臣は、最善の公的医療サービスを提供するためには、新医療技術及び治療法を導入することが重要であると述べた。また、ツゲリ (Robert Cugelj) 同センター代表は、2020年までに欧州基準に沿った、最新技術による患者サービスを提供できるセンター設立を目指している、と意欲を示した。



(Photo: Daniel Novakovič/STA)

●Valentin Vodnik死後200年【7日】

スロベニア語で書かれた最初の詩の作者であり、作家、言語学者であるヴァレンティン・ヴオドニク (Valentin Vodnik, 1758-1819)の死後200年を迎え、リュブリャナで様々なイベントが開催された。リュブリャナの生家「Vodnik Homestead」では7日、演劇が上演され、ヴオドニクの4つのオリジナルの原稿を特集した展覧会が開催された。



リュブリャナ旧市街のヴオドニクの像
(Photo: Tamino Petelinšek/STA)

●スロベニア選手、スキー・スノボW杯で表彰台【19日】

イタリアのコルチナダンペッツォで開催されたアルペンスキー・ワールドカップにおいて、女子ダウンヒルでスロベニアのシュトヘツ選手 (Ilka Štuhec) が3位となり、同選手が今シーズンでワールドカップの表彰台に上るのは4回目となった。また、スロベニアのログラ (Rogla) で行われたスノーボード男子パラレル大回転では、スロベニアのマルグッチュ選手 (Rok Marguč) が3位でフィニッシュした。

●スロベニア、欧州において最も少ない子宮頸がん発症率【21日】

本年の欧州の子宮頸がん予防週間(1月21日から27日まで)に際し、スロベニア保健省は、2003年にゾラスクリーニングプログラムを導入して以来、スロベ

ニアでの子宮頸がんの発生率は半減し、現在欧州で最も低い発症率であると発表した。スロベニアでは、20~64歳の女性の70%以上が定期的にスクリーニングに参加しており、早期発見および早期治療に役立っている。また、2009年以降、子宮頸がんワクチン(HPV(ヒトパピローマウィルス)ワクチン)接種は、希望すれば小学校6年生の定期検診の一環として行われ、費用は健康保険により賄われる。さらに、国立衛生研究所では、同 HPV 予防接種を男子にも広げる計画がある。

●スキージャンプTimi Zajc、札幌で銀メダル【27日】

昨シーズンにワールドカップデビューを果たした18歳、スキージャンプのザイツ選手 (Timi Zajc) は、FISワールドカップ札幌大会において銀メダルを獲得した。金はオーストリアのシュテファン・クラフト、日本の小林陵侑が銅メダルを獲得。ザイツ選手のこれまでの最高成績は、昨年11月ポーランドのウイスラ大会での5位、今回が初のメダル獲得。なお、スロベニア人がスキージャンプのワールドカップで獲得したメダル数は通算203個となった。



(Photo: <https://www.instagram.com/timizajc/>)

●大学における外国人留学生は6%【28日】

スロベニアの国立大学4校における統計によると、現在、国立大学の全学生65,640名の内、留学生は3,936名で、全学生の6%を占めている。その比率は前年の4.5%から1.5%の増加。学生団体関係者によると、スロベニアを選ぶ留学生は、学割適用による生活費用の安さ、生活のしやすさ、大学の評判、開設コースの質の高さ等に利点を見いだしている。また、スロベニアの大学によるEU交換留学プログラムのエラスムスプラス (Erasmus+) への加盟が増えていることも留学生増加の理由の一つである。

ドベルダン（スロベニア語で「こんにちは」）！今回は「Grintovec」という山で毎年7月下旬に行われているレースについて紹介します。この大会は前回、前々回と紹介したKamnikから車で30分ほど北上したあたりを起点に開催される比較的アクセスの良い大会です。僕が初めてスロベニアで出場したレースで、今までに4回出場しているとても思い出のあるレースです。ここ数年スケジュールが合わず参加することができていませんが、タイミングが合えば、是非とも再び参加したいレースです。



Grintovecというのは山の名前で、山の名前がそのまま大会名になっています。麓から山頂を目指す約9kmの一気上りのレースですが9kmという侮るなかれ、標高差は2000mあります。往復の一般的な登山タイムは12時間（登り7~8時間、下り4~5時間目安だそうです）。トップ選手はそこを1時間20分ほどで登ってしまいます。スロベニアは森林限界が低く、標高1600mあたりから岩肌が現れ切り立った姿を見せます。勾配はきついですが、その姿はとても美しい。もちろん、それを確かめることができるのはレースを終え下山している時なのですが…。



やっと一息つくことができるのは、荷物と食事を受け取る山の中腹まで戻ってきた時点です。ランチは甘い温かい紅茶とミートソースの Pasta。これが定番です。甘い紅茶は疲れた体に染み渡り、Pastaは運が良ければおかわりができます。ここでは選手同士も昼食をとりながら大いに盛り上がります。レース中はライバルでも終わればみんな仲間です。そして、さらに下ってスタートに戻ると多くの選手がお酒をガンガン飲みます。盛り上がってくると歌や演奏も入って大騒ぎ。その輪に入って一緒に盛り上がる。本当にみんなレース走ったの??と聞きたくなるくらいに元気で驚きます。



また、このレース、急勾配というタフさに加えて寒暖差が激しいという大きな壁があります。7月ですのでスタート地点は30度近い。山頂は独立峰になっているので風が吹き晒して時に雪がちらつき、体感気温は氷点下。終盤の登りは雪山行軍のような寒さです。フィニッシュをしてもまず渡されるのはエマージェンシーシート。保温をして、フルーツなどをほおばったら、選手はある程度気温の高い標高までどんどん下山していきます。力を出し切ってフィニッシュしても、その余韻に浸ることなく一目散に駆け降りるのです。



Grintovecに限ったことではないですが、レースはお祭りでもあるのです。次回以降も今までに出場したレースや走ったトレイルについて書いていこうと思いますので楽しみに！

宮地藤雄（ミヤチフジオ）

2013~18 マウンテンランニング日本代表

スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、最近では、ブレッド湖など郊外の観光地でもスリや置き引き被害が増加しています。人混みの中では荷物を体の前で持つなどご注意ください。